



## 流産絨毛染色体核型と流産の時期に関する検討

2010年1月1日から2024年12月31日までに妊娠初期流産のため当院で流産手術を行い、流産絨毛染色体検査を行った患者さん

### 研究協力をお願い

当科では「流産絨毛染色体核型と流産の時期に関する検討」という研究を倫理委員会の承認並びに院長の許可のもと、倫理指針及び法令を遵守して行います。この研究は、2010年1月1日から2024年12月31日までに日本医科大学付属病院 女性診療科・産科にて、妊娠初期流産のため当院で流産手術を行い、絨毛染色体検査を行った患者さんについて、経膈超音波で診断された流産の時期を調査する研究で、研究目的や研究方法は以下の通りです。直接のご同意はいただき、この掲示によるお知らせをもって実施いたします。皆様方におかれましては研究の主旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。この研究へのご参加を希望されない場合、途中からご参加取りやめを希望される場合、また、研究資料の閲覧・開示、個人情報の取り扱い、その他研究に関するご質問は下記の問い合わせ先へご連絡下さい。

#### (1) 研究の概要について

研究課題名：流産絨毛染色体核型と流産の時期に関する検討

研究期間：研究実施許可日から2025年12月31日

研究責任者：日本医科大学付属病院 女性診療科・産科 准教授（教育担当）川端伊久乃

#### (2) 研究の意義、目的について

初期に流産となってしまった胚について、流産絨毛の染色体の検査結果によって流産となった時期に違いがあるのか、正常染色体だった場合、不育症で明らかになっている要因で違いがあるのかなどを明らかにすることを目的としています。流産の時期は、診断のために用いた経膈超音波所見をから判断します。

#### (3) 研究の方法について（研究に用いる試料・情報の種類）

2010年1月1日から2024年12月31日までに日本医科大学付属病院女性診療科・産科にて、妊娠初期流産のため当院で流産手術を行い、流産絨毛染色体検査を行った患者さんについて、経膈超音波で診断された流産の時期を調査します。

この研究は、患者さんの以下の試料・情報を用いて行われます。

試料：特になし

情報：年齢、妊娠分娩歴、不妊治療の有無、不育症検査結果、流産絨毛染色体検査結果、経膈超音波所見

#### (4) 個人情報保護について

研究にあたっては、個人を直接特定できる情報は使用いたしません。また、研究発表時にも個人情報は使用いたしません。その他、「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針（文部科学省・厚生労働省・経済産業省）」および「同・倫理指針ガイダンス」に則り、個人情報の保護に努めます。

#### (5) 研究成果の公表について

この研究成果は学会発表、学術雑誌などで公表いたします。

#### (6) 問い合わせ等の連絡先

日本医科大学付属病院 女性診療科・産科 准教授（教育担当） 川端伊久乃

〒113-8603 東京都文京区千駄木 1-1-5

電話番号：03-3822-2131（代表） 内線：25668

メールアドレス：ikawabata8512@nms.ac.jp